

わたしたちの鹿児島、
わたしたちで守ろう。

Let's protect Kagoshima's native species by ourselves.

》 外来種から鹿児島県の生物多様性を守るために

鹿児島県は南北 600km にも及ぶ県土や 3 つの気候帯を有しています。また、渡瀬線を挟んだ 2 つの生物地理区に属しており、鹿児島県の多くの島々には、固有種、希少種が生息・生育し、独特な生態系が存在します。このため、動植物が持ち込まれることで、生態系に影響を及ぼす侵略的外来種となる場合があります。

世界自然遺産である屋久島や奄美大島及び徳之島でも、外来種が野生化し定着することで、生態系への被害やそのおそれが生じています。

これらのことを十分に理解し、安易に県内へ動植物を持ち込むことのないようにしましょう。

外来種被害予防 3 原則

入れない

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」。



捨てない

飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」。



拡げない

既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」。



》 外来種は悪者なの？

外来種は、意図的又は非意図的に自然分布域外に持ち込まれた生物です。被害を受ける在来種同様、生態系や人の生活環境への被害を防止するために防除される侵略的外来種もまた「被害者」です。そのことを理解し、自らが新たな外来種問題の原因者とならないよう十分に気をつけましょう。

本県の外来種の詳しい情報については！ [鹿児島県 外来種](#) 🔍 検索

鹿児島県の外来種の詳しい情報については、鹿児島県のホームページをご覧ください。

URL <https://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/index.html>



鹿児島県にお住まいの方向け

台湾シジミ種群
防除マニュアル



台湾シジミ種群は鹿児島県に影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種とする「重要防除種」として選定されています。



タイワンシジミ種群ってこんな生き物

タイワンシジミ種群

学名：*Corbicula fluminea*

科名：シジミ科 ▶ 台湾、中国
分布：本土、奄美大島
鹿児島県カテゴリー：重要防除種

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
活動	[活動期間を示す緑色の横線]											
たも網	[たも網の使用期間を示す赤色の横線]											



形態

小型で褐色の2枚貝で色や形の変異が大きいです。日本に在来のマシジミと交雑しており、現在では区別ができない状態になっています。

生態

食性は、水中の珪藻など植物プランクトンや浮遊有機物です。

繁殖

繁殖期は春季。雌雄同体で自家受精が可能です。在来シジミ類に比べて大量の精子を放出し、それらの遺伝子が雄性発生で引き継がれます。

タイワンシジミ種群による影響

在来シジミ類との交雑、競合、遺伝的攪乱が懸念されています。また、本種の移入や放流に伴い、カワヒバリガイ等の他の外来貝類の持ち込みが懸念されます。

タイワンシジミ種群の防除方法

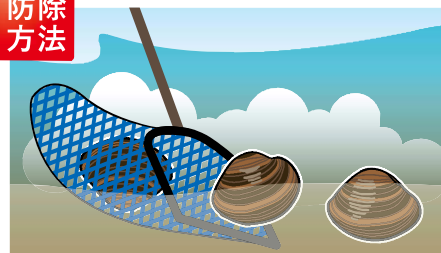
ここを
チェック!

主な生息地 湖沼などの淡水域

たも網

時期 ● 一年中

防除方法



たも網等の道具を使用し、底の砂礫をすくい、水中でゆすり泥を流します。たも網の中にいるタイワンシジミを捕獲します。

タイワンシジミとマシジミの野外での識別は困難です。
在来種であるマシジミが多く生息している場所での防除はやめましょう。

廃棄方法

ビニール袋に入れて冷凍した後、土に埋めるなどして廃棄しましょう。
また、一般廃棄物として燃えるゴミに出しても良いです。

※詳しくは各自治体のゴミの収集・分別ルールをご確認ください。

今後の取り扱い

輸入シジミや他の地域に生息する貝類を野外に放流しないようにし、これ以上タイワンシジミ種群を増やさないようにしましょう。

よく似た 在来種

間違えないように
気をつけましょう



マシジミ

湛水に住むシジミ科の二枚貝です。殻は30～35mmで、殻の表面は若いうちは黄褐色、成長につれて黒味がかかり、緑色、黒色と変化していきますが、生息場所の影響を強く受けます。

※野外におけるタイワンシジミ種群との識別は困難です。